

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

令和2年度

自己評価報告書

令和3年1月9日

上尾中央医療専門学校

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>上尾中央医療専門学校は、未来が求める「人」を育成します。 人としての基本的態度を土台に、医療人としての礼節と社会人として必要とされる能力(社会人基礎力)を持ち合わせ、専門的な知識・思考、技術を用いて対象者に治療提供できる。また、自己を内省し、問題解決ができる療法士を育成します。</p> <p>4つの教育理念 【社会人・医療人としての精神】 社会人としての礼節を基盤に、心身を病む人を思いやり、自己の役割と責任を担う力を育成する。</p> <p>【高度な自己学習能力】 生涯にわたって発展させるべき自己学習能力を育成する。</p> <p>【質の高い治療】 治療者として必要な基礎知識、思考、技術を有し、臨床に応用できる能力を育成する。</p> <p>【時代に即応できる人材】 治療技術のみでなく保健・医療・福祉各分野で広い視野を持ち、社会のニーズに即応できる臨床家を育成する。</p>	<p>社会人としての礼節と自覚、医療人としての共感的態度を持ち、倫理に基づいた思考・活動ができる能力を養う。</p> <p>内省的視野を持つことで自己の問題に気づき、それを解決する能力を養う。 広い視野を持ち、絶えず向上しようとする発展的自己学習能力を養う。</p> <p>専門職として必要な知識、思考過程、技術を修得し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養う。</p> <p>保健・医療・福祉の関連性や連携を意識し、チームの一員としての役割と責任が果たせる能力を養う。 また、常に社会情勢に目を向けニーズを把握し、将来起こりうる変化へ対応できる能力を養う。</p>

最終更新日付	2020年12月17日	記載責任者	高島 恵
--------	-------------	-------	------

2 本年度の重点目標と達成計画

目標	アウトカム	手段
1. 教育の質保証の確立（学習成果の維持・向上） 2. 教員育成と教育力向上の支援 3. 教育環境（施設設備）と安全の保証	◎国家試験合格率 100%、進級率 100% ◎就職希望者の就職率 100% (1) (4) 専門科目の再試験者数の学科間の差が縮小 (2) 学則および法令遵守による懲戒ゼロ (3) (6) 成績不振や学校生活課題による退学者ゼロ (5) 必要な時に備品が活用できるよう、整備 (1) 実習要綱の完成と周知、実習前後評価の実施概要完成 (2) 実習の円滑な進行 (3) 実習指導者 70 名育成 (4) 学外演習指導者 80 名育成 (5) 新しい指導者要件を満たす人数の把握と、それに対応した実習承諾数の確保 精神科領域の OT 実習地拡充 (1 施設) (1) スマホサイトアクセス数 11 万件 資料請求数 1300 件 イベント参加者数 560 名 受験者数 140 名 (PT 75、OT 65) (1) 奨学金の規定に準じた確実な運用	1) 学内教育関連 (1) 専門科目の運営方法（授業や評価方法）の見直し (2) 学則および法令遵守に関する指導の徹底 (3) 個別性に応じた学習支援の強化 (4) 授業計画書（シラバス）作成ガイドラインに沿った、確実な運用 (5) 新指定規則に応じた新規備品を含め、教材の活用 (6) 授業評価の確実な実施と活用 2) 臨床教育 (1) 臨床実習体制の整備 (2) 指定規則・ガイドラインに沿った実習形態及び実習環境の啓発 (3) 臨床実習指導者の育成 (4) 学外演習指導者の育成 (5) 新指定規則に対応した実習地の確保および、実習地の拡充と連携 3) 学生募集 (1) 年間計画に沿った広報活動（イベント、広告等）の確実な実施 (2) 埼玉県の申し合わせ事項および本校計画に沿った入学試験の継続 (3) 各種イベント（模擬授業、学校ガイダンス）の効果判定 4) 学校運営 (1) 学生の負担軽減に関する事業（奨学金）の運用（給付型、貸与型、学校）

最終更新日付

2020年12月17日

記載責任者

高島 恵

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目標・人材育成像を明確し、関連業界とも連携を図りながらその実現に向けて活動が行えている。 ・学生・保護者・関連業界等とより密接な連絡を図る為に、理念・目標・人材育成像の理解浸透を図っていくことが必要である。 ・中長期将来構想を検討し策定を行った。学校 HP に掲載し、学生・保護者・関連業界への周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や保護者、関連業界へ説明を実施しているが、よりよい理解を得る為に時期、説明内容や方法を今後も継続的に検討する。 ・教育・理念・人材育成像について、適宜見直しを実施できる検討責任部署を明確化すると共に、計画を検討する。 ・関連業界協力のもと、各種関連委員会の活動を継続し検討・検証していく。 ・中長期将来構想をより理解して頂けるよう、学生・保護者・関連業界への周知および啓発することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目標・人材育成について、学生はもとより、保護者に対し保護者会・学校公開日、高校教諭に対する説明会を通し理解を図っている。また、関連業界に対しても会議等を通じて適宜行い、理解と協力を得ている。

最終更新日付

2020年12月21日

記載責任者

神山 真美

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目標を踏まえた運営方針を定め、それを周知している。 ・「未来が求める人」を育成するため、実践教育の中に時代への即応も含め、それを達成するための事業計画を定めている。 ・中期事業計画については、第二期（令和2年度～令和6年度）が定まり、運用している。 ・定めた事業計画を基に年度ごとに組織を見直し、目標達成に見合う組織編制を検討し編成している。 ・設置法人の運営については学事課に適宜相談し、寄付行為の見直し含め実行している。 ・学校運営に必要な組織を整備し問題なく運営している。 ・人事・給与に関する規程と運用は特に問題なく実施されている。 ・意思決定システムに沿って迅速な意思決定がなされている。 ・情報システムが安全に効率よく機能するために、規程を用いた適切な運用がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に沿った運営方針は、本校の母体グループである上尾中央医科グループとも連動するものとなっている。 ・理念等を達成するための事業計画は教育幹部会議および運営会議にて検討され、教育活動および学校運営の双方がかい離しない仕組みになっている。 ・学内教職員が使用するグループウェアを完備しており、そのシステムを活用しての報告・連絡・確認ができる体制を整えているため、情報共有が確実に行われている。

最終更新日付	2020年12月17日	記載責任者	高島 恵
--------	-------------	-------	------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づき、ポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）を定め、教育を実践している。 ・カリキュラム委員会を設置し、規程を定め、教育課程編成に関する事項を継続して検討している。 ・指定規則改正は令和2年度入学生（15期生）から適用となっており、新しく教育課程を編成し運用している。 ・カリキュラム委員会、学校関係者評価委員会にて、教育課程に対する、外部の意見聴取や評価を実施している。 ・卒業生・臨床セラピストに対し、教育課程、教育の効果に関するアンケート調査を実施し、教育課程改定、教育の質向上に活用している。 ・キャリア教育に関する方針を策定している。 ・就職支援、資格取得支援等、教育活動全般をとおして、様々なキャリア形成の支援を実施している。 ・職業実践教育の効果ならびにキャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を平成29年度よりアンケートにて実施し、分析・評価している。 ・学生自身の自己理解、キャリアプランニング能力等を高めていく支援が必要である。 ・学生および教員間による授業評価を実施しており、その結果は教員にフィードバックしている。 ・令和1年度は、教員間による授業評価の実施状況に課題があった。 ・学則、学則施行細則にて成績評価、進級・卒業の基準を明確にし、学生便覧にて明示しているとともに、進級・卒業判定会議を実施し、客観性・統一性を確保している。 ・成績入力や成績判定の不備など、成績評価の基準に沿った適切な運用に課題があった。 ・理学療法学科、作業療法学科の、特に実技試験における再試験者数に差がある。 ・本分野における作品、技術等の発表の場はない、また、在学中における学会発表等は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より質の高い教育の実践のために、常に社会・臨床ニーズを捉え、定期的にポリシー、目標、教育課程、教育方法等の見直し、検討を実施していく。 ・今後も継続して、在校生・卒業生・就職先・関連する業界・機関等の意見聴取や評価を実施し、教育活動に繋げていく。 ・アンケートの分析、評価から、今後の教育活動に繋げていく。 ・学生自身の自己理解、キャリアプランニング能力等を高めていく支援を継続して実施していく。 ・授業評価結果のより効果的な活用について、継続して検討していく。 ・教員間による授業評価の流れ・方法を再検討し、再度教員に周知している。また、定期的に実施状況の把握、共有を実施する。 ・課題点の抽出と改善方策について十分に検討したうえで、成績に係る業務マニュアルを作成し、周知、徹底をはかっている。 ・両学科の授業、評価等について差がないか、確認、検討を実施済み。検討内容をもとに改善していく。 ・各種学会開催の案内とともに、学事に合わせて学会参加等を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の本校8つ特色を掲げ、教育を実践している。 『徹底した情意教育』 『効果の高い学習方法の実践』 『充実した実習と効果的な配置』 『早期からの確実な就職支援』 『手厚い学生支援』 『上尾中央医科グループを基盤とした教育システム』 『卒後教育の充実』 『3年間の最短学習』

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士、作業療法士の養成校として、目標とする免許は、教育課程上で、明確に位置づけており、すべての科目が免許取得に必要となるとともに、各授業でその意義について伝えている。 免許の取得について、指導体制を整備しているとともに、不合格者に対しては卒業後、現役生の国家試験対策に無償で参加できる体制をとっている。 資格の内容・取得の意義について継続して学生に伝えていく必要がある。 国家試験対策ならびに3年間の教育活動を定期的に振り返り、検討、改善していく必要がある。 職能要件を定め、教員としてあるべき姿を明確にし、定期的に評価を実施している。 採用規程を策定している。 教員一覧・教員名簿の提示方法及び情報公開について見直し、検討を実施し、ホームページにて公開している。 教員の資質向上の取り組みとして、教員間・学生による授業評価の実施、職能要件・面談による把握・評価を実施している。 令和1年度において、研修参加、研究活動の実施に関して、教員間に差があった（以前と比較し研修参加は改善していたが、今年度はコロナの影響あり）。 設置基準及び指定規則に則り、教員を配置している。 校務分掌を作成しているとともに、適宜見直しを実施している。 各学科会議、教育幹部会等において連携・協力体制を構築している。 各学科会議、教育幹部会、カリキュラム委員会等にて、授業内容・教育方法の改善に取り組んでいる。 兼任（非常勤）教員と、本校理念・目標・ポリシー、科目の学習目標、授業内容、試験等に関する情報を共有している。 専任・兼任（非常勤）教員間の更なる連携・協力体制の強化に向けて、継続して取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格の内容・取得の意義について継続して学生に伝えていく。 国家試験対策ならびに3年間の教育活動を定期的に振り返り、検討、改善していく。 職能要件の活用を継続して実施していくと共に、その内容の修正、検討を継続して実施していく。 面談等を活用し、適切な研修計画を立案する。 令和2年度コロナ感染対策を含めた研修会参加方針を定め運用している。令和2年度は目標値を達成することが難しい状況であることを考慮し、目標値達成を必須とはしていない。 各教員がテーマをもち能動的に研究に取り組む。 適宜研修、研究実績の把握、共有を実施する。 専任・兼任（非常勤）教員間の更なる連携・協力体制の強化に向けて、継続して取り組んでいく。 	

最終更新日付	2020年12月4日	記載責任者	白石 和也
--------	------------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【就職率】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校は上尾中央医科グループの1施設であり、就職に関するセミナーおよび面接試験については、上尾中央医科グループ協議会リハビリテーション部の指導を受ける機会を設けている。 <p>【国家試験対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生～3年生の授業内容は国家試験出題レベルに準拠している。 3年生時には4ヶ月間の国家試験対策では国家試験の合格率は100%を目指しており、作業療法学科は現役生が全員合格した。しかし、前年度理学療法学科は現役生全員合格には至っていない。 国家試験対策に関する教員向けセミナーに参加し、より効果的・効率的な学習方法の教授、学習環境の整備についての伝達講習会を実施している。 <p>【卒業生の社会的活躍】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上尾中央医科グループ内の施設病院に入職した卒業生とは、各種会議や実習地訪問で直接顔を合わせることも多いため状況を把握しやすい。 臨床実習において教員が実習施設を訪問したい際には必ず、卒業生の近況を伺い現況把握に努めている。 卒業生に対し、所属長へ卒後1年の活躍状況のアンケート調査を実施している。 研究実績は、インターネット上に開示されている各種学会への演題登録情報をもとに把握する。 	<p>【就職率】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会における理学療法、作業療法の需要を維持できるように臨床実践力を備えた卒業生を輩出し続ける。 <p>【国家試験対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科ごとに国家試験対策の期間中および対策終了後に学科全体で振り返りを行い、次年度対策の精度を高める。 国家試験対策に関する教員向けセミナーへの参加によって得られたノウハウについて伝達講習を通し、教員間での周知を継続する。 <p>【卒業生の社会的活躍】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生の社会的活躍を把握するためのアンケートを継続し、回答の際はマークシートと自由記載の形態をとり、所属長に直接郵送することで周知と回収率向上を図る。 	<p>【就職率】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の就職率は100%を確保している。 上尾中央医科グループの施設に就職を希望する者には、3年生に進級後、早期の就職試験が実施されている。 作業療法学科では就職地からの経済的支援が受けられる上尾中央医科グループ奨学金制度を活用し、2年生時点で就職先が決まる者がいる。 コロナ禍による収益悪化で求人数の変動があり、グループ外への就職が難航するケースもある。 <p>【国家試験対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの国家試験合格率の掲示は、合格率と受験者数を明記し、透明性を担保している。 左記の対策に加え、国家試験不合格者に対しては卒業後、現役生の国家試験対策（3年生）に無償で参加できる体制をとっており成果を上げている。 <p>【卒業生の社会的活躍】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上尾中央医科グループに就職した者に関しては、卒業後、グループ内の各種会議や研修会で直接顔を合わせることも多いため状況を把握しやすい。 教員が、臨床実習の実習施設を訪問した際には、卒業生の近況を確認している。

最終更新日付	2020年12月22日	記載責任者	生方 剛
--------	-------------	-------	------

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関しては上尾中央医科グループを母体として いるため、両学科とも就職率100%が維持でき ている。また、協議会・関連施設とも連携し ながら就職に必要な知識・技術のトレーニ ングが提供できている。 ・退学者に関しては、毎年数名いるが学業不振 が理由となることが多い為、個別指導を強 化しながら対応している。 ・臨床心理士による学生相談室を設置して いる。 ・作業療法学科の奨学金制度は28年度より 開始となった。また、寮の整備は難しく不 動産業者の紹介を継続していく。 ・保護者とは適切な連携が図られている。ま た、保護者会の開催（今年度はコロナの影 響により開催できていない）や、アンケ ートなどにより連携を強化している。 ・自治会活動に関する学生間の申し送りが十 分できておらず、書類の共有にバラつき がある。 ・卒業生の卒後教育研修はOB会との連携 により実施している。 ・社会人独自の対応は昼間部で同一で行 っている関係上、既修得単位認定以外 の対策は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学業不振による退学者の減少を目指して、 より個別指導の強化を図っていく。また、 経済的な理由からの退学に関しては、公 的制度の紹介を含めて個別対応していく。 ・放課後や昼休みなどの時間を利用して個 別指導を行っている。 ・自治会運営のサポートを積極的に実施し ている。 ・自治会の運営に関してマニュアルを整備 した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生は受け入れ実績がない。 ・寮の整備は今後も実施しないが、不動 産業者の紹介は継続していく。

最終更新日付

2020年12月21日

記載責任者

加藤 研太郎

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・教育上の必要性に対応する施設・設備・機器類を備え、基準より多い数量、種類の教育用具の充実を図っている。 ・校内は建築時よりバリアフリー化の対策済み。 ・希望する卒業生には、必要に応じ施設・設備を提供している。 ・施設・設備の安全管理に関する点検をし、改修・更新等の対応をしている。 ・学外実習では年3回の実習指導者研修会等を実施し指導者との交流を深めると共に学生指導の問題共有を図っている。 ・発生すると学生や職員の生命や心身に危害をもたらす事態に加え、学校の信頼性を損なう事態に対し、未然防止の対応及び緊急事態発生時の対応について、行動マニュアルを整備し、職員への周知をおこなっている。 ・消防設備点検は、法令に基づき実施している。 ・学校の実情に応じた学校安全計画を策定している。 ・防災訓練を年1回実施し、併せて防災研修も行い防災に対する意識を高めている。 (9月18日(金)実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機別行動マニュアルの教職員への周知を図るため朝礼や職員会議、グループウェア等で継続して周知をおこなっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上必要な専門図書、学術雑誌の他、国家試験の問題集を配架しており、年2回の蔵書点検を実施し、適切に管理をおこなっている。各学科に予算を充て、年々充実を図るとともに、学生の利用を促進するため教員によるお薦め本の紹介等をおこなっている。 ・建物の内外にはラウンジや広場等のオープンスペースを随所に設けており、学生間、学生・教職員間の交流が図れる場所となっている。 また、各部屋の配置は用途別で分かれており、機能的で分りやすい配置となっている。 ・学生からの要望が多かった Wi-Fi を昨年設置した。 ・学生の通学中の安全に関する指導のため、街頭指導を9月に4日間実施。 ・校内すべての空調設備の入替えをおこなった。 ・コロナウイルス対策として、マスクの配布や手指消毒剤を校内各所に設置し、学生ラウンジのテーブルには飛沫感染防止の透明シートを設置している。

最終更新日付	2020年12月21日	記載責任者	真下 博子
--------	-------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続する教育機関に対し、説明会の実施や訪問による説明、ホームページやパンフレットなどを活用し、積極的に情報提供を行っている。 ・ 保護者向けの学校案内についてはホームページにて入学に向けた説明を行っている。 ・ 入学選考および試験実施については、基準やマニュアルを用いて適切に運用している。 ・ 教員や保護者向けの学校案内を作成している。 ・ 入学選考に関する実績を、授業に活かし取り組んでいる。 ・ 経費内容に対応した学納金を算定しており、協議を経て適切に決定されている。 ・ 入学辞退者に対する対応は適切である。 ・ 今年度は4月から6月にかけて新型コロナ感染により、学校を開校した集合形式の学生募集活動ができない状況である。 ・ 緊急事態宣言が解除された後より、3密を避け、感染予防に留意した形で、少人数対応の学生募集活動を再開している。 ・ 学校ホームページ等を通じて情報提供に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した学生募集を目的に、引き続き活動していく。 ・ 今年度、新型コロナウイルス感染症に対応した、オープンキャンパスの運営方法、入試形態の変更を検討している。 ・ 経済支援の拡充を図り取り組んでいる状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集を効果的に実施する体制として、平成28年度より学生募集委員会を立ち上げ、現状の課題点整理と効果的な募集活動について検討し随時実施している。

最終更新日付	2020年12月21日	記載責任者	神山 真美
--------	-------------	-------	-------

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・本校は作業療法士、理学療法士養成校として平成18年に開校以来、入学志願者に恵まれ財務基盤は安定して来ていたが、全国的な少子化等により定員を満たさない年度も出て来ている。 ・開校15年目に入り空調機等の修繕計画を立案し実行する為、短期的には支出が上回る予算になる。 ・法人としては横浜に横浜中央看護専門学校を平成26年4月に開校した。 ・背景に上尾中央医科グループという医療関連グループを持つ為、ほぼ自前で実習施設の確保ができるなど経費も抑えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な学生数の減少については本校も例外ではない。毎年の学生募集と定員の確保について、学校独自の奨学金制度の拡充や学生募集戦略の見直しを行い改善が進んでいる。今後は全国的に知名度を上げられるように広報活動に力を入れて行きたい。 ・修繕計画は建築物環境衛生技術者らと定期点検を実施し計画的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度から指定規則改正があり設備投資をした為、支出が増えている。 ・令和2年度は空調機（室内機・室外機）の総入れ替えを行った。

最終更新日付	2020年12月21日	記載責任者	目谷 昭
--------	-------------	-------	------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を適切に行っている。 寄附行為、学則を定め、適切に運用している。 学生相談に関する規程に基づき、相談窓口を設置し、教職員に対するコンプライアンスの相談窓口を設置した。 学則及び細則を周知する為、毎年度、追加・見直しを行っている、学生便覧を配布し確認、指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> セクシャルハラスメント防止のための方針を策定し、対応マニュアルに従い運用しているが、さらなる周知が必要。 教職員に対する学校運営に関わる関係法令等の研修・教育を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育法 私立学校法 専門学校設置基準 学校保健安全法 専門士の称号の付与に関する規程 理学療法士及び作業療法士法 建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管理法） 平成29年度第三者評価修了 平成30年度一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定 日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟（WFOT）認定校

最終更新日付	2020年12月21日	記載責任者	目谷 昭
--------	-------------	-------	------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年8月に方針・規程を策定し、キャリア教育及び職業教育、地域への公開講座、介護予防事業への参画を通じ社会・地域貢献へ取り組んでいる。 ・教職員・学生に対し重要な社会問題に関する研修と教育についても取り組んでいる。 ・学生のボランティア支援を円滑に行う為、支援体制及び規程に基づき、活動を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方針・規程に基づき、教職員への浸透を図る。 ・今後も活動を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生へのボランティア推奨について、3年課程で学業が過密スケジュールとなっている為、実際に参加することが難しい状態である。 ・今年度は新型コロナウイルスの影響により、集合形式での研修会等を行うことが難しい状況である。また、学生が学校以外の外部施設へボランティア等で参加することも難しい状況がある。

最終更新日付	2020年12月21日	記載責任者	神山 真美
--------	-------------	-------	-------